

(様式)

普及項目	資源管理
漁業種類等	採貝
対象魚類	アサリ
対象海域	有明海

アサリ高密度発生漁場の冬場の生息量調査

県北広域本部水産課・津方 秀一、永田 大生

【背景・目的】

令和元年度、管内の秋季アサリ生息量調査において、アサリ稚貝の高密度発生が一部漁場で確認された。そのため、当漁場の漁場面積の推測および生息量調査等を実施し、得られたデータを現場に提供することで、当地区の資源管理の一助とすることを目的とした。

【普及の内容・特徴】

(1) 高密度発生漁場面積の推測調査

日時：令和元年(2019年)11月26日

調査者：水産課2名、横島漁協職員1名

方法：アサリ稚貝の高密度発生場所を確認後、当場所4ツ角(長方形)に杭打ちし、縦横の長さを測定・面積算出した。

結果：縦が42m、横が76m、面積は3,912m²であることが推測された(表1参照)。

(2) 生息量調査および資源保護対策

日時：令和元年(2019年)11月26日・令和2年(2020年)2月12日、3月9日

調査者：水産課2名、横島漁協職員1~2名

方法：高密度発生漁場内5ヶ所の枠取り調査(25cm×25cm)を行い、2~5部貝の各個数を計測し、当漁場の生息量を推測した。併せて、資源保護対策として、広島県大野町の資源保護の取り組みを参考に、種もみ袋に漁場の表層砂を入れ、漁場に再設置し、設置有無による生残・成長を比較することとした。

結果：11月26日は50.6個(809.6個/m²)、2月12日は32.2個(515.2個/m²)、3月9日は29.2個(467.2個/m²)であり、11月26日~2月12日までの約3ヶ月間で約4割が減少し、2月12日から3月9日の約1ヶ月で約1割が減少した(表2~3参照)。この時期ツメタガイにより食害を受けた個体が比較的多く認められた。特に、11月26日から2月12日の3ヶ月間での減少割合が大きい結果であった。

【成果・活用】

本結果を調査毎に漁協へ情報共有した結果、現場関係者による漁場把握を目的としたコンポースの設置、漁場内の網袋の設置にもつながり、本調査が現場の資源管理の一助とできた。併せて、冬場の減耗も把握され、本時期の保護対策を講じる必要性も考えられた。当漁場について、種もみ袋の効果調査も併せ、調査を継続する予定である。

(様式)

表 1. 測定結果

	測定結果
縦 (m)	42
横 (m)	76
面積 (m ²)	3,192

表 2. 枠取り調査結果 (25cm×25cm) : 5ヶ所測定結果平均値

	11/26	2/19	3/9
2分貝	48.0	27.6	25.4
3分貝	2.6	4.4	3.8
4分貝	0	0.2	0
5分貝	0	0	0
計	50.6	32.2	29.2

表 3. 調査結果から推測された生息量 (m²) の推移および前回比

	11/29	2/12	3/9
生息量 (個/m ²)	809.6	515.2	467.2
前回比 (%)	-	63.6	90.7

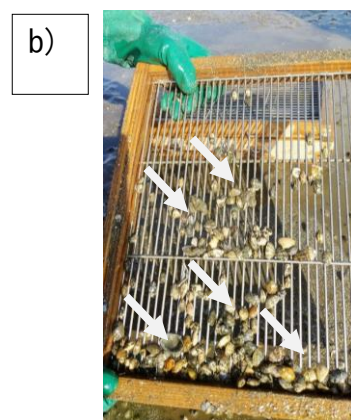
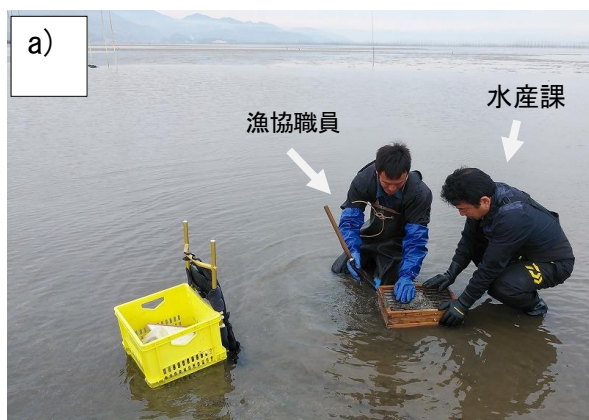


写真 1. 生息量調査 a: 枠取り調査 (水産課および漁協職員) b: 大量に発生を確認したアサリ 2分貝
c: 資源保護を目的とした玉ねぎ袋設置、d: 現場関係者による調査区内への網袋の設置